

第15回北九州市外郭団体評価会議 開催概要

- 1 開催日時:令和4年2月9日(水) 10時00分~12時00分
- 2 開催場所:Web開催
- 3 出席者:明石座長、今泉氏、新川氏、福地氏及び外郭団体所管課
- 4 議題:「令和4年度ミッション遂行票(活動計画)について」
- 5 議事要旨

議題1 令和4年度ミッション遂行票(活動計画)について

(1) 北九州高速鉄道株式会社(団体の経営状況について)

<構成員コメント>

- ・今後の経営状況は、償却前利益を指標とした方が前後の継続性が保たれるため、償却前利益を指標としたのは良いことだと考える。
- ・コロナ禍で公共交通事業の経営が厳しい中ではあるが、市民の利便向上のため、経営状況を注視した上で頑張っていたきたい

<団体等コメント>

- ・今後、設備更新を控えているため、経常損益よりもキャッシュの動きがより分かる償却前損益を指標とするほうが適切と考え、指標を見直した。
- ・掲げた目標の達成に向け、増収とコスト削減に取り組みながら、公共交通機関として安全・正確・快適な管理運営を維持できるように努めてまいりたい。

(2) 北九州市福祉事業団(団体の今後の経営について)

<構成員コメント>

- ・民間福祉事業者の先導的役割を担うという意味でも、保育士や医師、看護師といった専門職の処遇や人事管理といった、人的資源開発が今後、当団体にとって最も大事になると考える。

<団体等コメント>

- ・総合療育センターの運営については、超・準超重症心身障がい児など、重たい障がいをもった方を積極的に受け入れており、それが収支改善につながっている。
- ・保育士の確保が困難な状況であるが、市の承認を得て、正規保育士の増員ができれば、受け入れ不能の児童を受け入れることができ、事業団の収支も改善すると考えている。

(3) 北九州市住宅供給公社(成果指標「空き家の面的対策の地区数」について)

<構成員コメント>

- ・空き家対策の指標を「空き家所有者の同意取得数からの成約率」としているが、率を指標とすると、分母によってブレが生じてしまう可能性もある。成約件数なども指標に加えたほうが良いのでは。
- ・空き家の実態把握が大切であるため、空き家情報の獲得に関しても、今後、指標に加えることを検討していただきたい。

<団体等コメント>

- ・空き家情報の取得数および所有者の同意取得数は年度ごとに大きく変動することが想定されるため、「成約率」を指標とし、令和3年度の実績等を踏まえ、10%を目標数値とした。
- ・今後も、空き家の利活用や放置予防など、個々の取組みと合わせ、市と公社が連携して総合的に空き家を増やさない取組を推進してまいりたい。

(4) 北九州市芸術文化振興財団(コロナ禍での団体の取組と今後の方向性について)

<構成員コメント>

- ・市民の芸術文化に関する関心を高めることがミッションになっているため、例えば市民に対する特典付与など、市民の参加割合を高めるような工夫や取組を検討していただきたい。
- ・文化の心を培うためには教育との連携が重要。学校に配付しているタブレット端末を活用して動画配信を行うなど、教育部門とも連携しながら取組を進めていただければ。

<団体等コメント>

- ・コロナ禍においても市民が文化芸術に親しむ機会を確保するため、施設内での感染防止対策の徹底に加え、動画配信やオンラインによる新企画の実施などに取り組んできた。
- ・その結果、公演事業の満足度については目標である80%を大きく上回ることが出来た(芸術劇場91%、響ホール98.7%)。
- ・動画配信などにも取り組む一方で、市内小中学生を対象とした鑑賞教室の実施など、引き続き、実際の会場で舞台や音楽等の生の芸術文化に触れていただく機会の確保に努める。

(5) 北九州学校給食協会(コロナ禍での団体の取組と今後の方向性について)

<構成員コメント>

- ・地場産品を積極的に使うというのは、理念としては良いと思うが、使用状況を率で定めない方がよいのではないかと考えている。
- ・コロナ禍での環境変化を踏まえ、成果指標の優先順位や、コロナ禍における課題を整理し、改めて何がKPIとして適切なのか再定義し、成果指標を設定するべきではないか。

<団体等コメント>

- ・コロナ禍の中で、対応に苦慮したが、給食も計画どおり提供されており、給食物資の安定的な供給や業者への支払いも順調に進んでいる。
- ・どのような状況に至っても、柔軟に対応し、安全安心で安定した給食の提供に努めてまいりたい。